

⑫ 公開特許公報(A)

平3-100328

⑮ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成3年(1991)4月25日

F 02 B 53/00
F 01 C 1/356N 7114-3G
7515-3G

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全7頁)

⑭ 発明の名称 環状回転式シリンダーエンジン

⑯ 特 願 平1-235465

⑰ 出 願 平1(1989)9月11日

⑱ 発 明 者 巻 田 哲 郎 神奈川県横須賀市阿部倉町1362 メゾンパンプ201号
 ⑲ 出 願 人 巻 田 哲 郎 神奈川県横須賀市阿部倉町1362 メゾンパンプ201号

1. 考案の名称

環状回転式シリンダーエンジン

2. 特許請求の範囲

円形回転板の外周に複数のシリンダーを取り付け、そのシリンダーを円筒状の環状トンネルに通し、回転する開閉ブタによりフタをし、シリンダーとフタの間に送風タービンで圧縮ガスを送り込み、ガスをプラグにより引火、爆発させ、その圧力によりシリンダーを押し、回転板を回すことを特徴とするエンジン。
 往復運動をする部分が全くないことを特徴とするエンジン。

3. 考案の詳細な説明

イ 考案の目的

従来のピストン式エンジン(レシプロエンジン)に使用されているシリンダーの

往復運動により消費されるエネルギー損失と、その運動より発生する振動をなくす。

ロ 考案の構成

円形の回転板の外周にシリンダーを横向きに複数(1個以上)取り付け、そのシリンダーを環状のトンネルに通し、そのトンネルを横切る形で、回転板と連動し、回転する円形開閉ブタとシリンダーの間に、回転板と連動する送風タービンにより、円形開閉ブタに掘られているミゾを通して圧縮ガスを送り込み、十分に圧力が高くなつたから、プラグにより引火、爆発させ、シリンダーを押しやり、回転板を回転させる。シリンダーがフタのある場所まで来たときには、フタが開かれ素通りする。その後すぐフタが閉じられ、フタにあるミゾから圧縮ガスが送られ

すぐにミゾが閉じ、十分圧力が高くなれた状態で爆発する。その圧力が十分強い間は、フタが閉じられている。その圧力が弱くなる次のシリンダーが手前まで来た時に、フタが開き、シリンダーを通過させる。排気管は、フタの手前に付いており、常に開けられている。このパターンをくり返すことにより、回転しつづける。シリンダーには、ピストン式エンジンで既に使用されているリングをもう一枚気密性を保つ。また、そのリングは、円形回転板の外周の少し手前と、回転フタのある場所の円筒部分の外周の少し外側にももうける。その他、気密性が要求され、動く場所全てに、リングをもうける。プラグ引火のタイミングは、回転板に連動する回転式スイッチによって行なう。送風用タービンの出口部分には、空気(ガス)だめをもう一枚噴出するまで、そこに圧縮ガスをためておく。

ガソリンを気化させる装置は、従来のエンジンと同様のものを用いる。これを1組とし、複数(1組以上)を横にならべて連動させ、強い駆動力を発生させる。冷却方法は、従来のエンジン同様に空冷・水冷で行なう。円形回転板、円形回転フタ、送風タービンは、回転式スイッチはたがいに連動している。

ハ 考案の効果

従来のピストン式エンジン(レシプロエンジン)よりエネルギー損失が少なくてすむ。(燃費がよい)
また、振動も少ない。

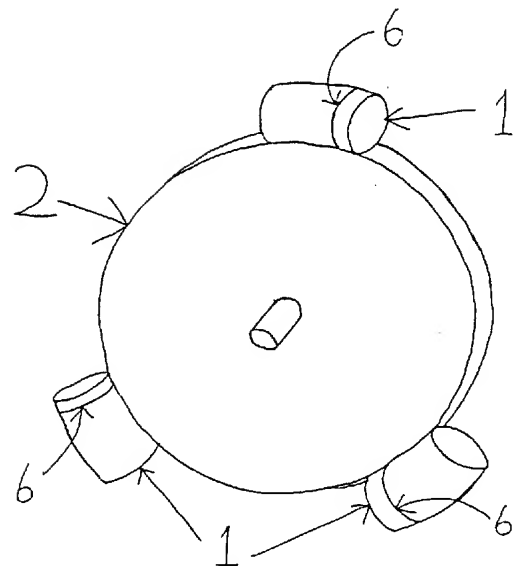
4 図面の簡単な説明

第1図は本件1組の断面図である。(シリンダーが3個の場合)
第2図は円形回転板の斜視図である(シリンダーが3個の場合)

第3図は円形回転フタの正面図である。(セカ欠部が2個の場合) 下は、A-Bの断面図。
第4図は環状円形トンネルの断面図である。
第5図は、送風タービンの断面図である。

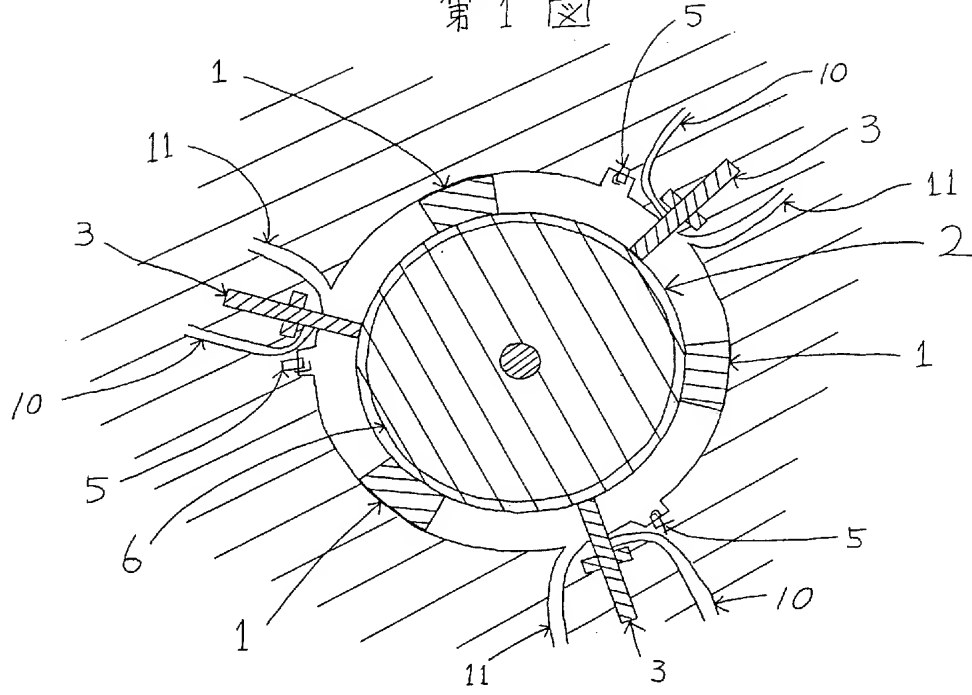
- 1、シリンダー
 - 2、円形回転板
 - 3、円形回転フタ
 - 4、送風用タービン
 - 5、プラグ
 - 6、リング
 - 7、セカ欠部
 - 8、ガス通し用ミゾ
 - 9、ハネ
 - 10、ガス注入口(送風用タービンへ続く)
 - 11、ガス排気口
 - 12、空気(ガス)だめ
- 特許出願人 巻田 哲郎

第 2 図

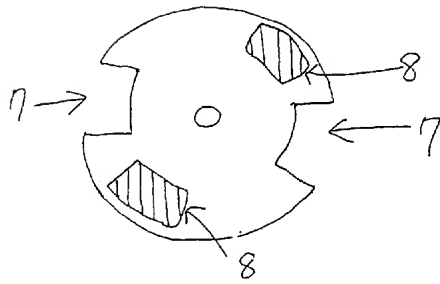


図面の浄書(内容に変更なし)

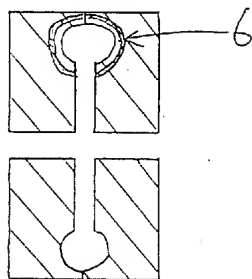
第1図



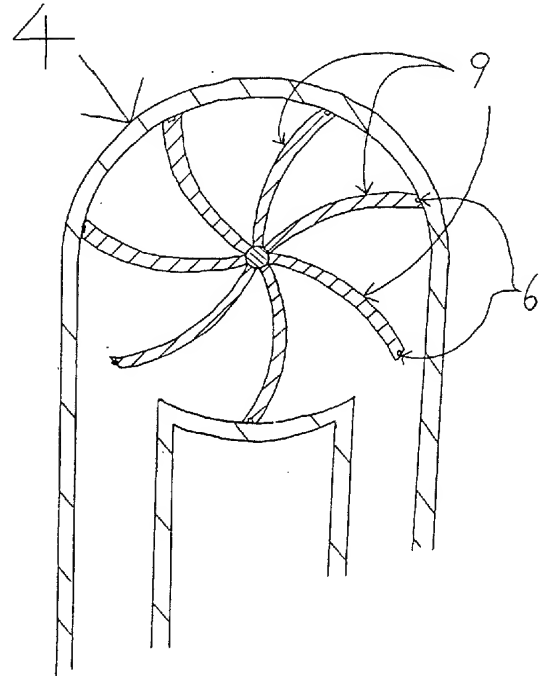
第3図



第4図



第5図



手続補正書(方式)

平成 2 年 1 月 22 日
特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成 1 年 特許願
第 235465 号

2. 発明の名称

環状回転式 シリンダー・
エンジン

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人
住所 神奈川県横須賀市
阿部倉町 1362
メゾンバンブ 201 号

氏名 ムキタ テツロウ
巻 田 哲 郎 (印)
(2.1.23)

1. 発明の名称

環状回転式 シリンダー・
エンジン

2. 特許請求の範囲

円形回転板の外周に複数の
シリンダーを取り付け、そのシリ
ンダーを円筒状の環状トンネル
に通し、回転する開閉ブタによ
りフタをし、シリンダーとフタの間
に送風タービンで圧縮ガスを送り
込み、ガスをプラグにより引火、
爆発させ、その圧力によりシリン
ダーを押し、回転板を回すことを特
徴とするエンジン。往復運動
をする部分が全くないことを特
徴とするエンジン。

5. 補正命令の日付
平成 1 年 12 月 26 日

6. 補正の対象
「明細書」「図面」

7. 補正の内容

願書に最初に添付した明
細書の浄書・別紙のとおり

明細書の 1 と 3 の題名が
まちがっており「考案」を「発明」
に直す。

上記以外は内容に変更なし

3. 発明の詳細な説明

イ. 発明の目的

従来のピストン式エンジン(レシプロ・エンジン)に使用されて
いるシリンダーの往復運動によ
り消費されるエネルギー損失と、
その運動より発生する振動を
なくす。

ロ. 発明の構成

円形の回転板の外周にシリ
ンダーを横向きに複数(1個以
上)取り付け、そのシリンダーを環状
のトンネルに通し、そのトンネルを横
切る形で、回転板と連動し、回
転する円形開閉ブタとシリンダー
の間に、回転板と連動する送風
タービンにより、円形開閉ブタ

に掘られているミゾを通して圧縮ガスを送り込み、十分に圧力が高くなつてから、プラグにより引火、爆発させ、シリンダーを押しやり、回転板を回転させる。シリンダーが、フタのある場所まで来たときには、フタが開かれ素通りする。その後すぐフタが閉じられ、フタにあるミゾから圧縮ガスが送られ、すぐにミゾが閉じ、十分圧力が高くなつた状態で爆発する。その圧力が十分強い間は、フタが閉じられている。その圧力が弱くなるか、次のシリンダーが手前まで来た時に、フタが開き、シリンダーを通過させる。排気管は、フタの手前に付いており、常に開けられている。このパターンをくり返すことにより、回転しつづける。シリンダーには、ピストン式エンジンで既に使用されているリングを

もうけ、気密性を保つ。また、そのリングは、円形回転板の外周の少し手前と、回転フタのある場所の円筒部分の外周の少し外側にももうける。その他、気密性が要求され、動く場所全てに、リングをもうける。プラグ引火のタイミングは、回転板に連動する回転式スイッチによつて行なう。

送風用タービンの出口部分には、空気(ガス)だめをもうけ、噴出するまで、そこに圧縮ガスをためておく。

ガソリンを気化させる装置は、従来形エンジンと同様のものを用いる。これを1組とし、複数(1組以上)を横にならべて連動させ、強い駆動力を発生させる。冷却方法は、従来のエンジン同様に空冷・水冷で行なう。円形回転板、円形回転フタ、送風タービン、回転式ス

witchはたがいに連動している。

4、図面の簡単な説明

第1図は、本件1組の断面図である。(シリンダーが3個の場合)

第2図は、円形回転板の斜視図である。(シリンダーが3個の場合)

第3図は、円形回転フタの正面図である。(セククタ部が2個の場合)

ハ、発明の效果

従来のピストン式エンジン(インプロエンジン)よりエネルギー損失が少なくてすむ。(燃費がよい)

また、振動も少ない。

第4図は、環状円形トンネルの断面図である。

第5図は、送風タービンの断面図である。

手続補正書(自発)

平成2年1月22日

特許庁長官 殿

- 1、シリンダー
- 2、円形回転板
- 3、円形回転フタ
- 4、送風用タービン
- 5、プラグ
- 6、リング
- 7、切欠部
- 8、ガス通し用ミツ
- 9、ハネ
- 10、ガス注入口(送風用タービンへ続く)
- 11、ガス排気口

1、事件の表示

平成1年特許願
第235465号

2、発明の名称

環状回転式シリンダー・エンジン

3、補正をする者

事件との関係 特許出願人
住所 神奈川県横須賀市
阿部倉町1362
メゾンバンブー201号

氏名 マキタ テンロウ 巻田 哲郎 (印)

「図面」

6、補正の対象

「明細書の図面の簡単な説明
の欄」

「図面」

7、補正の内容

「図面の簡単な説明」

- 1) 第3図の説明の最後に、
「下は、A-Bの断面図である」
という文を加える。

- 2) 番号の説明の最後に「12、空
気(ガス)だめ」を加える。

(別紙のとおり)

- 1) 第3図の切欠部(7)
の形を変える。

切欠部(7)の断面図を
下に書き加える。
(別紙のとおり)

- 2) 第5図の送風タービン
出口部分に空気(ガス)だめ
をもうける。
(別紙のとおり)

4、図面の簡単な説明

第1図は 本件 1組の断面図である。(シリンダーが3個の場合)

第2図は 円形回転板の斜視図である (シリンダーが3個の場合)

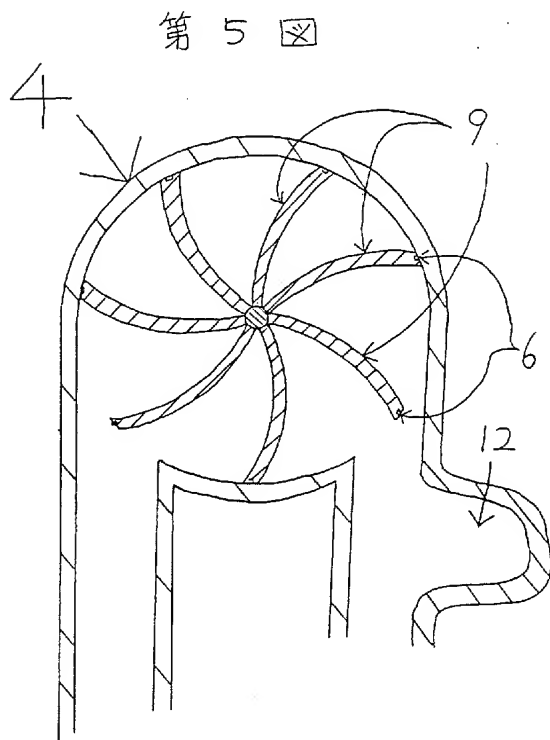
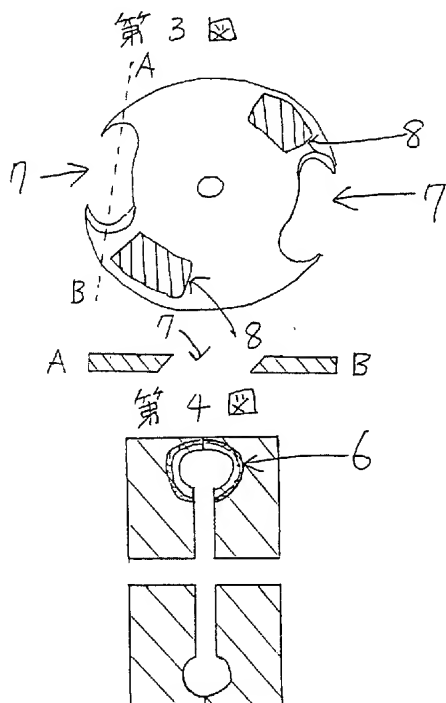
第3図は 円形回転フタの正面図である。(切欠部が2個の場合)

下は A-B の断面図である。

第4図は 環状円形トンネルの断面図である。

第5図は、送風タービンの断面図である。

- 1、シリンダー
- 2、円形回転板
- 3、円形回転フタ
- 4、送風用タービン
- 5、プラグ
- 6、リング
- 7、切欠部
- 8、ガス通し用ミツ
- 9、ハネ
- 10、ガス注入口(送風用タービンへ続く)
- 11、ガス排気口
- 12、空気(ガス)ため



PAT-NO: JP403100328A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 03100328 A
TITLE: ANNULAR ROTARY TYPE CYLINDER
ENGINE
PUBN-DATE: April 25, 1991

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MAKITA, TETSUO	

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MAKITA TETSUO	N/A

APPL-NO: JP01235465
APPL-DATE: September 11, 1989

INT-CL (IPC): F02B053/00 , F01C001/356

US-CL-CURRENT: 123/200

ABSTRACT:

PURPOSE: To decrease a loss of energy by rotatably fitting a circular rotary plate, to which a plurality of cylinders are mounted, to a cylindrical annular tunnel and supplying compressed gas from a blower turbine between an open- close over and the cylinder to be ignited.

CONSTITUTION: A circular rotary plate 2, in which a plurality (for instance, 3) of cylinders 1 are protrusively provided, is slide-rotatably

arranged in a cylindrical annular tunnel, and a mixture, compressed by an air blower, is supplied between the rotational after of the cylinder 1 and a circular rotary open-close cover 3 with the circular rotary plate 2 rotated by igniting a plug 5 to generate explosion. Here exhaust between the rotational front side of the cylinder and the cover 3 is discharged from a gas exhaust port 11. When the cylinder 1 approaches the cover 3, it is 60° rotated with the cylinder 1 passing from a notched part of the cover, and it is further 60° rotated after passing of the cylinder then closed with each process of charging air, explosion and exhaust repeated to continuously obtain turning force. Thus by reducing a loss of energy, the improvement of fuel consumption can be planned and vibration can be reduced.

COPYRIGHT: (C)1991,JPO&Japio